

サ ク ラ サ ク

～2009年春、満開のサクラのもとで卒業しよう～

第41号

2009. 01. 29

社会科「死刑制度を考える」2

生徒たちの考えを補強する意味で、現実の社会において「死刑制度」の存廃について活動をしている個人や団体の主張も紹介することにしました。「死刑制度」の廃止を主張している立場からは、1977年にその功績が認められてノーベル平和賞を受賞した「アムネスティ・インターナショナル」を取り上げました。この国際的な人権擁護団体は、「残虐な刑罰である」ことなどを理由に、廃止を強く訴えています。加えて、終身刑の創設を目指す「死刑廃止を推進する議員連盟」の主張を紹介したほか、冤罪であったことが判明し、死刑台からの生還を果たした「松山事件」の斎藤幸夫元死刑囚の様子についてもVTRで視聴しました。一方、犯罪被害者の権利確立などを主張する「全国犯罪被害者の会」についても取り上げ、犯罪被害者たちの悲痛な叫びの一端にふれました。さらに「全国犯罪被害者の会」で幹事を務める本村洋さんが、元少年に対して死刑を強く求めている様子をVTRで視聴し、再度「死刑制度」の存廃について生徒たちは考えをまとめました。



本村洋さん

山陰中央新報
(2008. 4. 17)

この時まとめた考えは、その後新聞社に投稿しましたが、このうちの1つが『山陰中央新報』の「こだま」欄に掲載されました。他の3名もほぼ同様の内容を文章にまとめているため、全国紙に分散させて投稿しました。掲載された場合には、あらためて紹介したいと思います。



山陰中央新報 (2008. 12. 27)

